

講義名	対2) 海外経済事情			授業形態	
担当教員	辻 美代		開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限	
	単位数	2	履修開始年次	2年生	ナンバリング

**主題と概要**

注  
対面授業を行います。感染症拡大の状況によって、進め方、提出課題、評価の基準等は、当初の予定から変更されることがあります。

第二次世界大戦後、戦争の反省から世界の経済構造が大きく変わり、世界経済は大きくは拡大した。授業では戦後の世界経済の成長を確認しながら、その要因を考える。とりわけ、現在GDP世界2位の大国に成長した中国をはじめとしたアジア諸国の急成長を考える。

また、戦後世界経済の成長を大きく促進した冷戦終了の意味について考える。冷戦終了による「グローバル化」の促進により、世界経済は相互依存関係が深まった。経済の相互依存関係の恩恵を受け、中国は急成長してきたが、現在、米国と中国は経済覇権をめぐって対立を見せるようになった。次世代技術覇権をめぐり米中は対立を深めているが、米中対立は中国と関係の深い日本経済、さらには世界経済に深刻な影響を与えている。

授業では、戦後世界経済の成長を俯瞰し、これから（コロナ後）の経済事情を展望したい。また、各国・地域の個別経済事情も紹介する予定である。

**到達目標**

学生は、第二次世界大戦後の世界経済の発展について学修することで、貿易・投資を通じた世界経済の仕組みが分かるようになる。

資源問題や環境問題など現代世界が抱える諸問題を理解し、考察することができるようになる。

経済「グローバル化」の現状について学修することで、現在、世界経済の抱える諸問題を理解できるようになる。

**提出課題**

- ・授業中に課題を出し、次回授業時に提出してもらいます（数回予定）。
- ・授業終了時に確認テストまたは小テストをレスポンドで行います（毎回予定）。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法**

- ・課題は次回授業時に解説します。
- ・確認テストまたは小テストは次週の授業時に講評・解説を行います。

**評価の基準**

課題の提出、確認テストまたは小テスト、期末試験を総合して評価します。但し、状況に応じて評価の基準は変化することがあります。

- ・課題提出・・・・・・・・・・・・・2.0点
- ・確認テストおよび小テスト・・・・4.0点
- ・期末試験・・・・・・・・・・・・・4.0点

**履修にあたっての注意・助言他**

先ず、日本に対して興味関心を抱くこと。自国への理解なく、他国への理解は不可能です。世界の中で自分たちが生活していることを実感しましょう。そして、テレビ・新聞・雑誌などを通じて様々なニュース、関連情報を取得するようにして下さい。

**教科書**

・教科書は使用しない。

**参考図書**

・世界経済学会2021/22年度版	矢野恒太記念会	矢野恒太記念会	2970	9784875494560
・FACTFULNESS(ファクトフルネス)	ハンス・ロスリング	日経BP	1980	9784822289607

**その他**

授業中に資料を配布します。また、その他参考文献を紹介します。

**授業計画**

1. 授業の主題と世界経済の現状
2. 戦後の経済構造の変化
3. 戦後の経済構造の変化
4. 冷戦終了の意味
5. 冷戦終了の意味
6. 中間まとめと小テスト
7. NIESの発展
8. NIESの発展
9. 中国の経済発展
10. 中国の経済発展
11. SAEN経済共同体について
12. EUについて
13. グローバル化と反グローバル化
14. 米中関係について
15. まとめ

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

予習：授業中に指示します・・・1時間程度  
 復習：授業で習ったことを、もう一度まとめ直してください・・・1時間程度  
 課題：授業中に指示します。図書館やインターネットで調べ、纏めてください・・・2時間程度

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

目標 1. を達成することで、世界銀行や世界貿易機関（WTO）などの世界機関の役割を理解できる。GDPで示される一国ベースの経済発展に加え、幅広く世界経済の発展に目を向け、問題を提起することができるようになる。

目標 2. を達成することで、DP（2）の世界経済の動きが理解できるようになり、貧困や環境と言った問題に向き合い、解決策を提案できるようになる。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**